

「もったいない」から「ありがたい」へ！

コープにいがた 食材支援の取り組み

コープにいがたの 食材支援

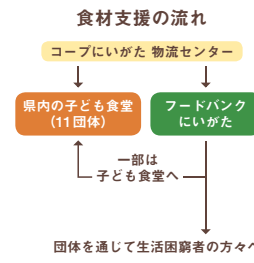
広報ネットワーク室 室長 佐藤 寿之

コープにいがたでは、野菜や果物の不良品や、流通の途中でお米の袋が破れてしまう場合などに備えて予備分の商品を入荷しています。また、商品の調達を行う上でどうしても発生する余剰品や、やむを得ない事情でキャンセルになった食品など、行き先のない商品が発生してしまう場合があります。こうしたフードロス削減するとともに、支援を必要としている方々への援助になればという思いがたちになり、食材支援の枠組みが出来上がりました。

2016年度に新潟市東区の「ふじみ子ども食堂」への食材提供を開始し、それ以降、計11の子ども食堂運営団体と覚書を交わし、食材支援を行っています。

今年度には「フードバンクにいがた」への食材提供も開始しました。

フードバンクにいがたへ提供している商品は、主に、常温で持ち続けるレトルト食品、缶詰、調味料、お米、お菓子などの他、日用雑貨品などもあります。これらの商品は、コープにいがた物流センターに直接取りに来ていただいています。



コープにいがたは、SDGsの取り組みの一環として「生活困窮者支援」「フードロス削減」の分野での社会的課題への貢献を目指していきます。

1 貧困をなくそう

3 すべての人に健康と福祉を

10 人や国の不平等をなくそう

12 つくる責任
つかう責任

子ども食堂とは

食を通じ、地域の子どもを地域で見守り、育むことを目的に、学びや暮らしを支えるネットワークをつくる活動。地域やそれぞれの運営団体により、特色のある活動をしています。

コープにいがた物流センターにさまざまな子ども食堂のスタッフが、定期的に食材を取りに来ます

「ふじみ子ども食堂」のようす(2016)

開設当初から、コープにいがたが支援を行っている「ふじみ子ども食堂」では、子どもとその親、一人暮らしの高齢者やボランティアの地域住民、学生など、さまざまな年代の人が共に食事をします。食事をするだけでなく、地域のつながり作りにも貢献しています。

フードドライブとは

「食べ物を集める運動」という意味。生産者・企業や家庭で余っている食品を、学校、地域、職場などが拠点となり集め、それらを地域の福祉団体や施設、フードバンクに提供する活動です。

食品ロス削減月間の10月、コープにいがたでは、家庭で眠っている、賞味期限が1カ月以上ある食品の提供を、役職員に呼びかけ、フードドライブ活動に協力しました。

新潟県内には、常設のフードドライブの拠点があります。詳しくは、NPO法人フードバンクにいがたのホームページや新潟センターまで

問い合わせ
TEL: 025-384-4466 FAX: 025-384-8224

ホームページ | フードバンクにいがた | 検索

支援する施設などにお届け

10月、フードバンクにいがたの活動を取材しました

お米・野菜などを提供してくれる団体に受け取りに行き、提供品とともに支援する施設に運びます。この日は、毎週お届けしている6団体・施設へ。

新潟県は、農産物が豊富で、お米や野菜、果物の提供が多く助かります

届け先に到着。何をどのくらい配ったかを記録しながら渡していきます

この日の目的は、コープにいがたからの提供品は、マイナンバーとツナギを付与して、

コープにいがたへ食材調達

毎週木曜日に、コープにいがた物流センターで、必要な商品を選びます。

このマークが目印の車で運びます

「毎週届けていただいていたのが本当に助かっています」と施設の住民代表の方

フードバンクとは

品質には問題がなく、また食べられるのにさまざまな理由で廃棄せざるを得ない食品を、無償で提供してもらい、食の支援を必要としている施設や団体、生活困窮者の方々に届ける活動のことです。

フードバンクにいがた新潟センター

新潟市中央区の勤労福祉会館の一角にある倉庫を兼ねたセンター。ここに集められた食品は、仕分けされ、各施設、団体へ

賞味期限 近い食品 1ヶ月以内

期限や種類できちんと分けられて管理されています

特定非営利活動法人 フードバンクにいがた

新潟市で2013年から始まったフードバンクにいがたは、現在、長岡・三条・柏崎にもセンターがあり、地域に根差した支援活動を行っています。

米・ごころ新潟でも、ご飯を十分に食べられない人がいる。まだ食べられるのに捨てられてしまう食品がある。そんな状況がなくなることを目標に、個人や企業・団体・生産者から野菜や加工食品などの食材を提供してもらい、新潟県内のシニア施設・福祉施設・ひとり親施設・障がい者施設・子ども食堂など、食の支援を必要としている人達に届ける活動をしています。

各地から集められた食材は、各センターで直接お渡ししていますが、状況により施設や団体

新潟センター
ボランティアサポーター
の真木さん
お話を聞きました。

日本は、先進国であり食べ物が豊富にあるにもかかわらず、食の支援を必要とする人が増加しています。また、まだ食べられる物を捨ててしまうフードロスが問題になっています。コープにいがたは、SDGsの取り組みの一環として、生活困窮者支援とフードロス削減を目的に、「フードバンクにいがた」「子ども食堂」への食材提供を行っています。その取り組みを取材しました。